

科目責任者 小笠原 裕樹(分析化学研究室)

**■教育目的**

大学という、学習・挑戦に恵まれた環境の中で、学内教員の指導のもと、自分で設定した問題の解決に向けて能動的に取り組む姿勢を身に着ける。課題解決型の学習と演習を中心に行うことで、問題解決能力をより高め、自ら問題提起できるようになることを目指す。【卒業認定・学位授与の方針:YD-①、YD-⑥】

**■学習到達目標**

各人が、指導教員と相談のうえ、到達目標を設定する。基本的に5年次までに行った研究あるいは関連テーマに継続的に取り組むものとする。

5年次の研究コースおよび実務実習での経験から見出した問題に、実際に実験あるいは文献調査を行うことによって、問題解決能力をさらに高める。

到達目標は、学生だけで勝手に決めるものではなく、あくまでも指導教員との合意が必要である。そのため、6年次はじめに、指導を担当する教員との話し合いを経て、明確な到達目標を設定する。

**■準備学習（予習・復習）**

予習：テーマに関連した事項を、該当する実験書、教科書などで見直して知識を整理すると共に、インターネット等で新しい知見について調べておく。

復習：実験結果及び文献の内容を整理し、新たな疑問を見いだせるように努め、次回の解決を目指す。

**■授業形態**

課題解決型学習、実習・フィールドワーク

**■授業内容**

学内教員の指導のもとでの演習となる。

学習到達目標が同一ではないことから、指導教員によって演習内容に違いが生じ易い。従って、学外選択コースに比べて演習内容が劣ることのないように、以下の点を守ることが必要である。

- ①指導教員との話し合いで、研究テーマを設定し、演習内容の計画を立てる。
- ②研究ノートあるいは演習ノートを作製し、毎日の演習内容を記録する。
- ③薬学研究コース A 全体の講義に出席する。

**■授業分担者**

原則として5年次における研究コース A において指導を担当した教員

**■課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法**

演習・研究に取り組む姿勢と、その成果を指導教員が評価する(40%)と共に、科目責任者に研究・文献調査に関する報告書を提出し、その内容を加味(60%)して総合的に判断する。